



中村 哲

Dr. Tetsu NAKAMURA
% Mission Hospital Peshawar
Peshawar, N.W. F. P
PAKISTAN

お元気ですか。つい1週間ほど前まで家族のセツルメントや病院内の仕事の申し送りに忙殺され、おちおち筆をとる暇もありませんでした。おかげさまで今のところ一同、元気にすごしております。先週の総選挙は、ペシャワールでは混乱もなく無事終わりました。

病院ではウジャガー院長が5月中に去ることが公になりました。しかし、殆どの者は病院を去らず、病院の活動そのものが絶えることはありません。新任の院長が誰になるのかは、まだ明らかではありませんが、14年前の前任者Dr. バピントンが来るかも知れません。院長なきあとは、私が一部の代行任務を与えられるが、私としては、らいの仕事以外の病院管理には首をつっこまないことにしています。

1985年度の主な目標は靴のワークショップの開始です。それと移動診療のルールをひくことです。今のところN・W・F・Pでは多くのニーズがありながら、放置されているのが実情です。それも決して巨額を要するものではなく、いつまでも有効に残されてゆくもの、長期的にみて余りのある恩恵をもたらすものです。これにお金を投じて、決して惜しくないと思います。

先ずは、そのためにも家族を落ちつかせることに奔走しています。(ここは女性が住みにくい世界です)しかし、今のところN・W・F・Pのレプロシーセンターや各ディスペンサリーとも良い関係が得られ、見透しは充分、明るい気がします。次期院長がどうなっても、レプロシーワークは続けてゆけるし、N・W・F・Pのセンターが今後も有効に実動する見透しのため現在、患者のためにも続けてゆかねばなりません。

家族の生活については、長もちするよう最大限、配慮しております。教育のこともペシャワールでは伊藤先生ほどには苦勞することはありません。家内も想像していたほどには住みにくくはないので、リヴァプールや清瀬に比べるとずっとまじだなあと喜んでます。私は、ここまでアレンジするのに、やゝくたびれ気味。買ひものと称してバザールでお茶をのむのが唯一の楽しみです。